福德過報喇 卷二

へ13
2702
2

伊へ
37020
9

備後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

備後遍報記卷之二

同編

沸報山切

茅蕃宗助

福德過報噺巻之二

御釈迦石切

分限者の股と石切の陰囊とハ冷るといへた
石切の下男ハ冬ハ綿でも入き冷ぬ様にと
ちゝ合ハせ綿ぐ。骸をあたゝ
身をたゝるぬ食事味ひよかゝるぞ。こゝ
人参万伝丸の千年霜露丹のと良薬
を呑む友後と腰と冷ハせ綿ぐ食事は
かゝる事多し。家小揚弁御釈迦の禁

ふ石切の庄屋とゝく六指ばかりの[illegible]
者なる作ら[illegible]ゝく[illegible]老人なる人の[illegible]
なるる或[illegible]御[illegible]のを示原村の者為う
て民神へ石のるる所を掘ゝ上たゝと彼
庄屋中へ入るさきよりゝも毒の粕めた人
つゝ中めゝく作ゝ笠末ハ九人額をけの
要石を九人作ゝ幸ハ[illegible]ゝ[illegible]ハみゝ[illegible]
して[illegible]三十表いをるべゝ[illegible]へおろ
して[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ云

原村の者ゝ[illegible]掘へく[illegible]とゝ[illegible]
ゝたゝ[illegible]へ入[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
三八位と定め吉月を[illegible]
彼の石を切出て[illegible]
思へば。夜の内ふ[illegible]
ふも四本の柱石をの[illegible]
て[illegible]庄屋ふ思[illegible]
せと中飯もこゝふ入[illegible]

石のうけとるべくくるべきいみして糸をと
かゝ石のこゝ腰をうけおつるもくるのく
ゆくみぞ足下地ゆゑ足てんをづゝゆ細ユ
もれぱいをのるゆゑ糸の方れゆゑ馬の
つゆ面さうり十八九の童面紙ハ人をゞ背セ
中を花生書まよして居る。こを形やせく筋
骨ふくく髓ハ朱を十面ん也ゆうたるごく
髮のもみどうく赤ゆゝ。元を清ゆハ若元反
よゆこそ面陸ゆまゝ。たゝいゝどもあるゆと

ぜどをちゝくからくゝとゝ石をたゝけどもいゝゑ
ず。扨て童飯時ゆれば長崎茶を又ゆ飯
ごうゆるくゆゑの方ゆ入くゆゆ飯と童ゆ元
出ゝゝゆゑもそれとまいまゝゝて指ゆ也
童屋ゆゆくゝうりをれ飯を吟ゆ指ゆゝ糸
と糸ゆんゆ入くく童のゆのゆゝくゆゆゑ也ば
呑む指ゆゝひ石をゝゝゆゝ入ゝゝゝ入ゝ思ゝば指ゆ
也を常の先をを也をゝうゆゆゝくと見ゝる
あの石をゝくゆゝ也ゝばゝ石を押也ゆゆ

それ也ともそれまでよりかるぐとかんへても
安し。庄兵衛にハゐがくやよひ足跡がつきやすく
人まと人足も入らぬとん安く細工の出来次第と
悦びて七ツ付るとふるまれバ八合の人り出す何
るもかまうぬとく出来ぬとて庄兵衛ハ我家
へ帰りゆきが。細工に手間が入るべく後ろ庵る
おどふ仮でりふ米の二三合と飯ふふに入まで
ふまてと女房や嗜ふいへバむせびしました菜の
物ハ重ねね沃山に入らく人まる。治郎兵衛ハ

彦兵衛と云世悴ども手代が入込まぐと見れば
いやしく手代の入る時ハ沙汰ともするでいろ/\経
ありとて山の鳴ハ一切せぬとして毎日/\右の
通りふく山室の手代衣目数あるを取るべき
を六七日に出来たりしが あり/\お頭を時ハ
沙汰をせよかしと思へども何もの屋うすとらん
んと思ひ往くみれバ様慶への事ぐぞおいて
志うも紙場にあるべくくみろう。有難しと思ひ
中金とれきいまう平子石の上へ何ぶ着殿

ぶるぶる
ぶるぶる

伊勢山のこと
ぶるぶる

まいまとて居給て元吉清ハ宿へ帰りて家内男女
親仁殿だうさ志ゐ門たと弟孫てと何の相
ゐも云ずと。ひとハ原村へいく者ハ出来た
わどふ人まとゑを連る時ハ足元ゑが入給ふ
他を枝木とも云ふ者ゑ恵ゑ西まてと右の元清
いく共伏云くこひといへば兄弟のまた我
とあり居ふ出来ずとハ。親仁ハ老ふ
わまてれさせ居うとたぶ如く原村へ通
てれば知ら人まと大勢来く地車ふのせ

て引付る居ハ宮れいふ出来ず〜ゑ。元清
ハ思ひも寄ずとひ安く出来く他料の金
五十両ゑ給ふよく成ふう。三度年月を経
て庚申の夜御〜ふ清中へ物語〜ゑまバ
それハ山ゑ居ふ迷氣ふ入まバ思ハ忘幸ひを
ひる氣ふそむくく人とを引さく。面とバ見宮
思ふどゑや新ハ志うんぐ月ハ三つ元清
辰ハ果報ゑ人どゑやゑの神の氣ふ入ら
志ゐ門たとゑ笑ふ居給ふれう元清ハ次

ます〳〵に仕合よく繁昌して栄へけり

孝養宗助

親に孝行なれバ金(こがね)の釜を堀出せしためしあれ
生ながら孝をたつれバ神ほとけも守給ふ。依て誠
後ハ節句節季などの呉服店と木綿店と
が向ひ合て店をいへども是ハ格別。三絵の
大店が湊と唐國とが向ひ合て居りといへた
一万里をへだてたりくされどもかく合
中さまぞ。家に江戸大通りなく裏店に

店をかりて近所の米を舂く賃を人にかりて
たのしミ。親子弐人くらしかねるに宗助年
若てかゝるくらし故ふ奉公かせぎの念ハ
となりて宗助が母ハ娘廿一才にすまひも実
躰なむこゝをみて私が出入の格方へ引付月々
とおくりて手傳まで力う米濁きを仕あハせ
なるとおもむきありのおかミ人が常く家をお
せしどのハさアもかよし志く八何程もみ
ますと云いや舞ハ壹人てよろこびぐる拾

を伝たのこます〳〵云縁ハ出雲の大社く法
むくみと云事角〳〵芝口の大坂屋ふた
ためくかたよく狂智俗で三十ばかりぐく
系のを石やを〳〵ハん安くたくなり書
ひじやと相出屋中ゞ書て三國一しやの
主ていり豆ふ〳〵まて別物ふ炭酒し
意のふとを元付引付三九段とすみ刑
宗書と名を改たあ。出入のかゝへと出入
して第る義ゝり使ふといゝ方〳〵やと

是親子中よく善ゝるゝが祖父く親宗
助ゝ出ゝ〳〵ゝ方ゝ家あ付てお果ゝる。方〳〵
より出ゝを〳〵て親元の中の娘ゝ能時ゝ
ふ宗書屋ゝ書ゝておせゝのゝとゝ行たへ
いぐよいと娘ゝ注屋ゝ宗助と称ゝへ逆
ゝ行ゝを金ゝふ弟ひゝゝ。或時宗書陽元
へ陽治の使ふ迎ゝ称ゝおせゝゝかゝ前ゝ
てゝ居る今ハ親仁屋の命日迎業陽として
料使と使へ某義料を宿へゝるでゝ人ゝ親仁

辰右命の時に主ひ杵と申く者ありてみて
と御とげく見たりあるべて見る門さ絲の沢
げたれ〳〵と呼るやうるゆ作くゆ無後ゆ四人て
ふひたりあるでたりして市茶湯とさ〇へと
傳へ〳〵と伝あひ三三日ゆうと宗長湯坊る
歳〳〵えゆ川たり弟さの門智り来もなかい
たりと宗ふ云宗長へ伝と食せく様〳〵る
沢女房ゆ杵の沢がおそぐと呼りゆうと
云宗長それ様〳〵き来とうと〳〵

四ふ段ひくえかゝれたれバいうあるやう様と
杵の沢とるぞく見れば堀末がる堀ゆて見れば
歩刑ゆ六十ゆ宗長弟ゆ見れ見八拾人表ゆ二かど
の元ゆや親に辰八た海ゆ人やと様ひまゆ表
居へ出ひさ来見セ又世影来ゆ小別ゆて今ゆ
の出入の弟ゆ着たり時く雲間ゆうと見
とゆと娘せたゆ親ゆ孝行あるうと皆人
やゆ

福德過新嘗卷之二終